



2017年12月期第3四半期

決算説明資料

2017年11月10日

I. 2017年12月期第3四半期 決算概要

II. 2017年12月期通期 業績予想

I. 2017年12月期第3四半期 決算概要

II. 2017年12月期通期 業績予想

2017年12月期第3四半期 損益状況

単位：百万円 下段：構成比	2016年12月期 第3四半期実績	2017年12月期第3四半期			
		実績	前年同期比	増減額	通期業績予想
売上高	1,772 (100%)	1,361 (100%)	△ 23.2%	△ 441	1,800 (100%)
メディア事業	708 (39.9%)	659 (48.4%)	△ 6.9%	△ 48	840 (46.7%)
ストア事業	1,092 (61.6%)	728 (53.5%)	△ 33.3%	△ 363	960 (53.3%)
売上総利益	694 (39.2%)	438 (32.2%)	△ 36.8%	△ 255	860 (47.8%)
販管費	729 (41.1%)	682 (50.1%)	△ 6.4%	△ 46	1,150 (63.9%)
営業利益	△ 34 (-%)	△ 243 (-%)	-%	△ 209	△ 290 (-%)
経常利益	△ 69 (-%)	△ 247 (-%)	-%	△ 177	△ 310 (-%)
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 34 (-%)	△ 323 (-%)	-%	△ 288	△ 410 (-%)

- ・ メディア事業は、上期低迷の影響が大きく減収、ストア事業は店舗閉鎖等により減収。
- ・ メディア事業は、広告案件に係る外注費が増加したこと、ストア事業は売上減に伴い、売上総利益が減少。
- ・ 販管費を削減したものの、売上総利益のマイナス分を補うには至らず、営業損失。

業績トピックス

メディア事業

【新規事業】

大型ゲームタイトル（リネージュ2レボリューション）獲得により増収。YouTube動画、攻略記事の配信に加え、イベント開催の運営受託や、公式攻略サイトの運営も実施。

広告プラットフォーム事業は、運用型広告市場が伸び悩み、売上減少が続く。

社外YouTuberとのコラボ動画や、企画動画への注力により、マックスむらいチャンネルの登録者数150万人突破、また、再生回数が増加。



【新規事業】

『ringolf』は堅調に推移。リアルイベントの開催、プレゼント企画など、ユーザーとの密接な関係性を構築。



『麻雀ツモツモ』はコラボ企画によりダウンロード数が増加。また、Tポイント連携によりユーザーの継続率が上昇。広告モデルを追加し更なる収益増を目指す。

『漫画プロジェクト』（アプリ）から『Denesy-デネシー-』（WEBサイト）に移行。また、収益モデルを広告収入に移行。



業績トピックス

ストア事業

【採算性改善】

事業採算性改善のため、不採算店舗を閉鎖。

店舗閉鎖 5月：「イオンモール与野」。

7月：「ららぽーと新三郷」、「ららぽーと立川立飛」、「池袋PARCO」。

9月：「イオンモール四條畷」、「イオンモール堺鉄砲町」。

【商品】

先行販売、オリジナルグッズをはじめとする独自商品の提供を強化。

iPhone 8発売に伴う影響は限定的。iPhone Xの初動は順調。

【店舗】

買い替え期間長期化に対応して、モバイル保険やiPhone修理の提供店舗を拡大。

【Eコマース】

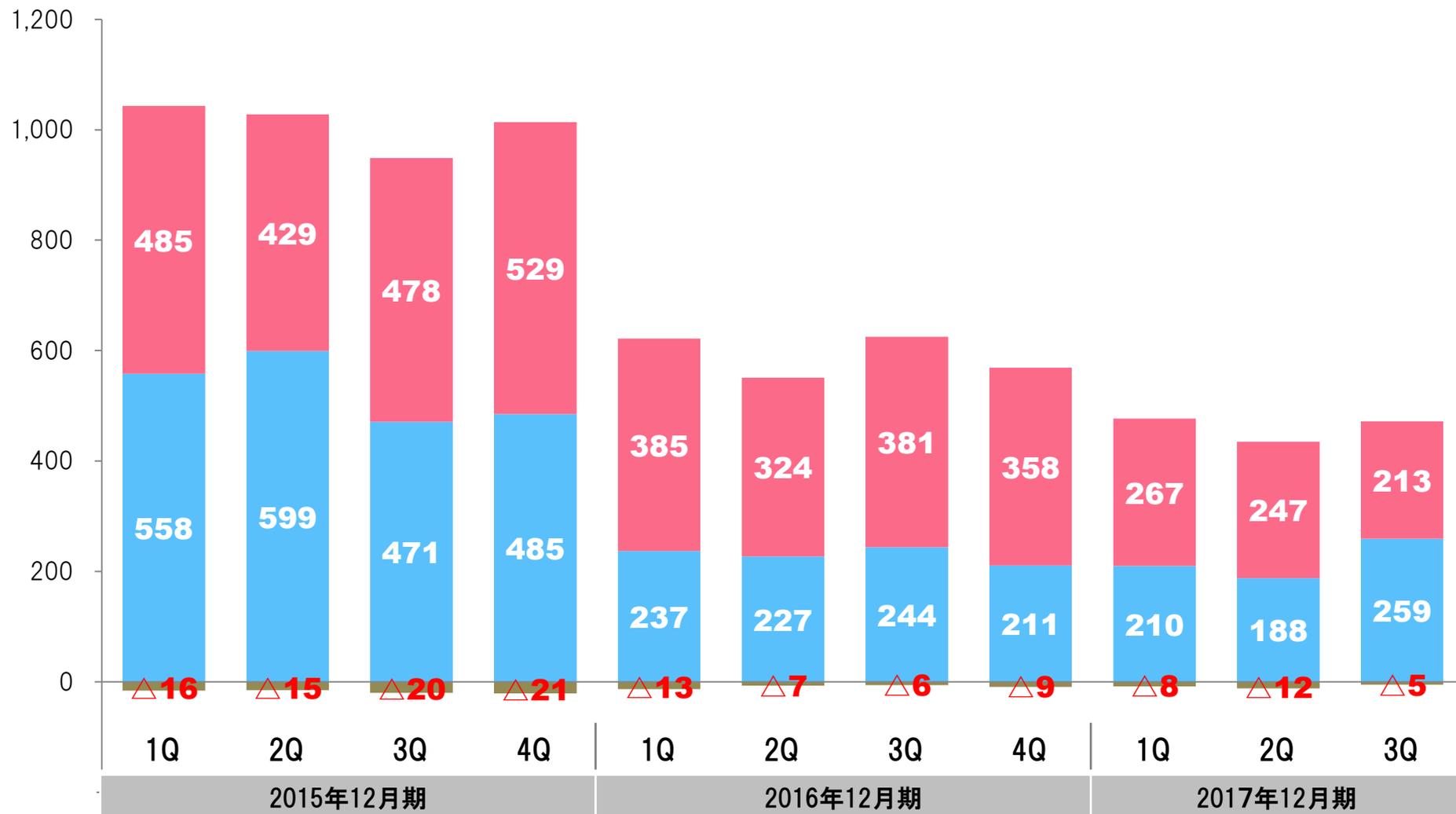
「Amazon Pay」での支払い対応開始するなど、ユーザーの利便性向上となる施策を実施。



連結売上高 四半期推移

単位：百万円

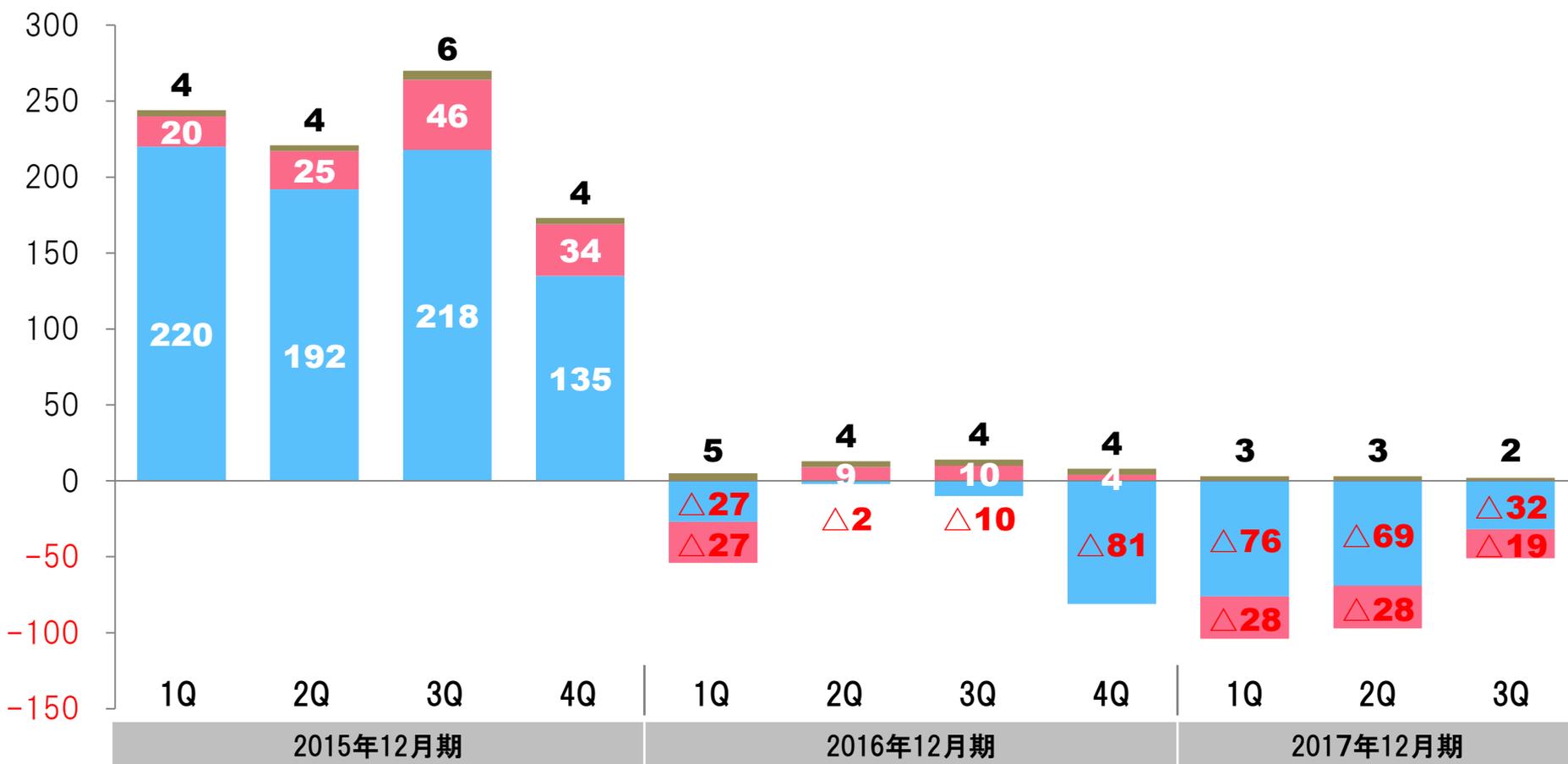
■メディア事業 ■ストア事業 ■調整



連結営業利益 四半期推移

単位：百万円

■メディア事業 ■ストア事業 ■調整



単位：百万円 下段：構成比	2016年12月期 第3四半期実績	2017年12月期		
		実績	前年同期比	増減額
売上高	708 (100%)	659 (100%)	△6.9%	△48
売上総利益	238 (33.6%)	144 (21.9%)	△39.5%	△93
販管費	278 (39.3%)	322 (48.8%)	+15.9%	+44
営業利益	△39 (-%)	△178 (-%)	-%	△138

・売上高：

【既存事業】純広告収入は微増の一方で、広告プラットフォーム事業は単価下落等により減収。

動画事業では、「マックスむらい」チャンネル登録者数が150万人を超え、回復傾向にあるもののチャンネル動画広告収入は減少。

【新規事業】スマートフォンゲームアプリ「麻雀ツモツモ」は、ダウンロード数増加等に伴い増収となるものの運営費を賄うに至らず。「ringolf」は、純広告売上に寄与。

・売上総利益： 広告案件に係る製作外注費が増加したため、減少。

・販管費： 役員報酬を含む人件費を抑えたものの、広告宣伝費は増加。

2017年12月期第3四半期 ストア事業の状況

単位：百万円 下段：構成比	2016年12月期 第3四半期実績	2017年12月期第3四半期		
		実績	前年同期比	増減額
売上高	1,092 (100%)	728 (100%)	△ 33.3%	△ 363
売上総利益	476 (43.6%)	314 (43.2%)	△ 33.9%	△ 161
販管費	484 (44.4%)	390 (53.6%)	△ 19.5%	△ 94
営業利益	△ 8 (-%)	△ 75 (-%)	-%	△ 67

- ・売上高：
Eコマース、店舗とも前年対比で売上減。店舗については渋谷PARCOをはじめとする店舗閉店と既存店の伸び悩みの影響が継続。
- ・売上総利益：
昨年と比較し売れ筋商品が原価率の高いガジェット系商材が中心であったため、減少。
- ・販管費：
店舗閉鎖や本社費の削減など固定費の削減に努めているものの、黒字化には至らず。

単位：百万円	2016年12月期末	2017年12月期第3四半期末	
			前期末増減額
流動資産	1,957 (88.9%)	1,308 (83.0%)	△649
固定資産	245 (11.1%)	267 (17.0%)	+22
資産合計	2,203 (100%)	1,576 (100%)	△626
流動負債	582 (26.4%)	426 (27.1%)	△155
固定負債	558 (25.3%)	396 (25.1%)	△161
負債合計	1,140 (51.8%)	823 (52.2%)	△317
純資産合計 (純資産比率)	1,062 (48.2%)	753 (47.8%)	△309
負債純資産合計	2,203 (100%)	1,576 (100%)	△626

- ・ 流動資産：「現金及び預金」、「売掛金」、「未収還付法人税」等の減少
- ・ 負債：「借入金」の返済により減少
- ・ 純資産：「四半期純損失」により減少

7月	AppBank Storeららぽーと新三郷、ららぽーと立川立飛閉店
	リネージュ2レボリューション 公式イベント（予選）を運営受託
	AppBank Store池袋PARCO 閉店
8月	リネージュ2レボリューション 公式イベント（決勝）を運営受託
	<ul style="list-style-type: none"> ・マックスむらいの「パズドラやろうぜ！」26コンボ目 ～湯けむり出張版～ ・クラッシュオブキングスオフ会@沼津キャッスル（静岡）
9月	AppBank Storeイオンモール堺鉄砲町、イオンモール四条畷閉店
	YouTube マックスむらいチャンネル 150万人突破
	東京ゲームショー Tポイントブースにて「麻雀ツモツモ」イベント開催

I. 2017年12月期第3四半期 決算概要

II. 2017年12月期通期 業績予想

2017年12月期通期 業績予想

単位：百万円 下段：構成比	2016年12月期 実績	2017年12月期		
		予想（8/10修正）	前期比	増減額
売上高	2,332 (100%)	1,800 (100%)	△ 22.8%	△ 532
メディア事業	919 (39.4%)	840 (46.7%)	△ 7.7%	△ 70
ストア事業	1,448 (62.1%)	960 (53.3%)	△ 33.7%	△ 488
売上総利益	871 (37.4%)	860 (47.8%)	△ 1.7%	△ 11
販管費	978 (42.0%)	1,150 (63.9%)	+17.6%	+172
営業利益	△ 107 (-%)	△ 290 (-%)	-%	△ 183
経常利益	△ 145 (-%)	△ 310 (-%)	-%	△ 155
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 80 (-%)	△ 410 (-%)	-%	△ 300

上期：メディア、ストア事業ともに減収減益。

下期：メディア事業は広告営業強化、開発費先行の新規事業収益化による業績回復、ストア事業は不採算。

事業見直しで、収益性改善見込む。販管費は構造改革に要する一過性費用により増加。

既存事業

ゲーム会社をはじめとする、更なる広告主の拡大に努め、大幅増益を目指す



大型ゲームタイトルの広告案件を獲得。国内クライアントとの関係再構築を図り、年末の大型イベントでの収益化を目指す。また、YouTubeチャンネルの状況回復に伴い、広告案件の増加を目指す。

新規事業

ゲームや動画以外の非エンターテインメントを早急に立ち上げ果実化させることにより、大幅増益を目指す



「ringolf」、「麻雀ツモツモ」では広告案件、広告モデルの追加により収益を獲得。今後は更なる増益を目指すと共に、「Denesy」ではPV数増加の施策を図り、ユーザー数の増加と収益化を目指す。

ストア事業

赤字店舗閉鎖効果等により赤字額の圧縮を目指す



事業採算性改善のため、ららぽーと新三郷、ららぽーと立川立飛、池袋PARCO、イオンモール四条畷、イオンモール堺鉄砲町を閉店。本社固定費を圧縮し、赤字幅を縮減。